

登録コード	F9000390	開講年度	2026				
授業科目	理科指導法				担当教員	桜井 達雄	
英文授業名	Teaching Method of Science III				副担当		
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	金曜・5時限		対象学生
講義室	繊維1 2 番講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー 該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2 2 Fカリ						
	【2020年度以降加付対象】繊維科学を基盤とし、現実の課題を解決するために、学際・業際領域を切り拓く創造的能力が身に付いている				・中学校理科のねらいや指導改善の方向を踏まえた授業づくりについて理解し、教育実習に向け見通しをもつことができる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	○教師に求められる基礎知識としての学習指導要領の理解と理科教師として必要とされる基本的な資質、能力の取得を目指す。 ・新学習指導要領の基本的な考え方及び学習指導要領理科の目標と指導の重点について、授業づくりに具体化していく。 ・授業づくりに向けた教材研究の在り方を、素材の選定や生徒理解、予備実験等を通して、単元に即して学ぶ。 ・授業における教師の生徒へのかかわりの具体を、主体的・対話的で深い学びの視点から学ぶ。 ・指導内容の系統性や理科の見方・考え方を踏まえた指導について、レポートや指導案の作成、模擬授業等を通して考える。 ・互いのレポートや模擬授業を通して、授業の見方も含めた評価の在り方を学ぶ。 ○第1回～15回を桜井が、第16回～30回を小松が担当する。						
(5)授業計画	第1回：理科指導法 に関するガイダンス 第2回：授業を創る「目標と評価」 第3回：授業を創る「学習指導要領と指導案」 第4回：授業を創る「単元の学習内容と年間計画」 第5回：授業を創る「指導案を作成する」～「気象とその変化」を例に～（１） 第6回：授業を創る「指導案を作成する」～「気象とその変化」を例に～（２） 第7回：生徒理解と教材研究（１）「電流とその利用」における素朴概念 第8回：生徒理解と教材研究（２）「電流とその利用」における実験を企画する 第9回：生徒理解と教材研究（３）「地球と宇宙」における素朴概念 第10回：生徒理解と教材研究（４）「地球と宇宙」におけるワークシートの作成 第11回：「化学変化とイオン」における粒子概念形成を目指す授業実践 第12回：理科における地球環境問題の扱い方 第13回：指導案作成と模擬授業 1 第14回：指導案作成と模擬授業 2 第15回：理科指導法 を振り返って						
(6)成績評価の方法	・毎回の振り返りシート（50％）、レポート、学習指導案などの提出物（40％）、授業への取り組み（10％）を基本として総合的に判断する。						
(7)成績評価の基準	規準：概ね達成されていると判断されるレベル 学習指導要領や教科書をもとに、本時の学習のねらいや目指す生徒の姿を説明できる。 「主体的・対話的で深い学び」となる授業づくりに寄せた指導の工夫について説明できる。 生徒が主体となるレポートや指導案の作成、模擬授業の実施に努める（学びに向かう力）ことができる。 基準 「やや上にある」：規準点の3点を満たした上で、自身の改善点を説明できる。 「かなり上にある」：規準点の3点を満たした上で、生徒のつまずき等を予想し、修正・改善できる。						
(8)事前事後学習の内容	・中学校学習指導要領解説 理科編に記されている内容を一読し、臨めるとよい。 ・中学校、高校における「理科授業」で心に残ったことなど、体験を語れるとよい。						
(9)履修上の注意	理科（中）教員免許状取得希望者は、必修である。						
(10)質問,相談への対応	講義前後、随時対応します。 メール（桜井）：sakurai@shinshu-u.ac.jp						
(11)学生へのメッセージ							
(12)その他							
【教科書】	・指定しない。						
【参考書】	・中学校学習指導要領解説 理科編（文科省） ・高等学校学習指導要領解説 理科編（文科省）						